



発表会の練習が始まりました

第 29 回藤田佳代舞踊研究所発表会 10 月 28 日(土) pm 6 : 0 0 開演 神戸文化大ホール

発表会の練習がスタートしました。

最初の作品は「室内の交差点を渡るとき子守唄がきこえてきても眠っちゃいけないよ」です。

本部スタジオの北西 JR 住吉駅西側の有馬道と山手幹線道路の交差点を室ノ内交差点(むろのうちこうさてん)といいます。

室ノ内という名前がずっとときにかかっていた。どんなムロがあってその内側ってどんな様子なんだろうかと。

信号が青になって子どもたちが交差点を渡るとき 子守唄がきこえてきたので ふうっと眠くなって目を閉じたら 真っ暗闇の穴の底にいました。ここからおはなしが始まります。8 人の彩の精霊が現れて子どもたちを色のリボンで八方へ連れていきます。子どもたちはいったいどこへ連れていかれるのでしょうか。発表会をどうぞお楽しみにしてください。

藤田佳代

わたしは、こんどのはっぴょう会で雲をえんじます。

雲のようにまっ白でふわふわしたわたのような気もちでおいりたいです。曲も大きすぎて頭からはなれません。

沖紅音(本部児童科)

今年は『花の香り』になるそうです。

「発表会」という言葉を耳にするようになって、ゆうきは去年のことを思い出したらしくウキウキしています。初めてのお化粧、ピンクの衣装、そして初めての大きな舞台。どれもこれも嬉しくてたまりませんでした。当日、たくさんの拍手を自分一人でいただいたかのような喜びように、わたしは泣き笑いでした。指導して下さった先生方をはじめ、一緒においこを頑張った友達、携わって下さった多くの方々のおかげで舞台に立てたことに感謝しました。先日「寄ってみようか」と足を伸ばした神社でのこと。お賽銭を投げたあと手を合わせて「発表会...」とつぶやいていました。「去年より少しでも痩せて、去年よりもピンピン足でかっこよく...」と願うわたしは関係なく、きっと今年も喜びを爆発させながら踊ってくれるでしょう。

私事ですが、「藤田先生の教室で、ゆうちゃんにダンスを習わせてみたら?」と背中を押してくれた人がいます。去年の様子を伝えたら誰よりも喜んで、「今度は絶対見に行くからね。」と楽しみにしながら病氣と闘っていたのに、約束を果たさないまま遠いところへ逝ってしまいました。その人の元にもどうぞ『花の香り』が届きますように、と祈っています。

間原真由美(間原夕貴 本部リズムクラス)

発表会に寄せて

モダンバレエ。独特の美の世界。私を受け入れてくださる教室がありました。とても嬉しかったです。モダンを基本とした体操科でした。

先生の指示に全身すみずみまで気が抜けない。「ハアハアと、でも来てよかった」とレッスンに励んでいます。地道に汗を流すことの積み重ね。目標は続けること。今できることを今の形でいきたいと思っていましたが、発表会に出るように...。優雅な衣装で舞台上。皆様に助けていただきました。スポットライトを浴び、踊り終えた喜びは感無量でした。家族総出で見に来てくれるのもうれしいです。今年は 3 回目の出場。元気に可憐に踊る子供達に負けない様、シルバーも背筋伸ばして軽やかに舞台目指して、練習する日々、の今日この頃です。

八木宏子(本部バレエ体操科)

私は、毎年の発表会が大好きです。そして今年の発表会もとても楽しみです。たくさんの人達が一つの「踊り」を踊るのはとてもすごいことだと思います。今年の発表会も、私が踊れる一番ステキな「踊り」ができるといいな、と思います。それに、たくさんの人達に何か感じてもらいたいと思います。

松本佳那子(加古川ジュニア科)

ずっと一緒に踊ってきたメンバーと、新しい仲間も加えて、今年も仲良く踊ります!

中村牧穂(常吉ジュニア科 本部研究科)

今年の発表会で踊る曲は、すごくはやい曲なのでついていけるようにがんばります。

清河光穂子(山の街ジュニア科)

ご報告

兵庫県文化功労の表彰を受けました。

何かを成し遂げたからというわけではなく、多分 モダンダンスをし続けているから。

モダンダンスをし続けることが出来たのは この研究所に生徒のみなさんが集まり 発表会をし さらに先生たちのリサイタルを支え 加えて創作実験劇場を支援して下さったからだと思います。

また 後援会に入り 財政援助をし続けて下さった会員のみなさまのお陰と感謝の念でいっぱいです。

本部スタジオに表彰状と銀杯をおいています。みなさんがお受けになったものとしてどうぞご覧くださいませ。

それなのに藤田にお祝いをいただきました。たいへん恐縮しております。ありがとうございました。

リサイタル 創作実験劇場などに有意義に使わせていただきます。

藤田佳代

4 月 29 日 第 19 回こうべ全国洋舞コンクール創作部門で かじのり子が「石の魚」を出品し、奨励賞を受賞しました。

創作は僅か 3 作だったがそれぞれ味がかった。「石の魚」のかじのり子作品は、白い 5 人の象徴性を持った動きが快い。

白石裕史 『関西音楽新聞』 2006 年 6 月 1 日号より抜粋

【創作部門】奨励賞かじのり子作「石の魚」。しっかりとした構築力で群舞の動きを美しくまとめ、舞台上に鮮やかな軌跡を残し、センシビリティの良さを示した。三輝容子 『週刊 オン ステージ新聞』より抜粋

創作実験劇場がおわりました

創作実験劇場 2006年3月5日(日) 兵庫県立芸術文化センター小ホール

「風」金沢景子 「おい雲よ」寺井美津子 「松がおどる」向井華奈子 「ハスミ in spring」藤田佳代 「石の魚」かじのり子
「分子レベル」鎌倉亜矢子 「hide and go-seek」菊本千永 「私の中のわたし」灰谷留理子 「追いかける」藤田佳代

舞台は闘いである...客席との闘い、舞台に住む魑魅魍魎との闘い、そして何より自分との闘い...今回の実験劇場ではもう一つの闘いがありました。闇との闘いです。

去年11月に設立されたばかりの芸術文化センター。今回の舞台はその真新しい劇場の小ホールでした。コンサート用に設計されたホールで、舞台を客席がぐるりと取り巻いているすり鉢状の劇場です。袖幕はなく舞台後方に入出入り用のドアが2箇所あります。緞帳などありません。照明がついている中を出て行って踊り、明るいうちに帰ることができれば問題ないのですが、作品によっては真っ暗な中で所定の位置につき、踊り終わると闇の中を出入り用のドアまで帰っていかねばならないのです。普段なら袖幕があるのでスタッフが懐中電灯を振ってくれて帰り道が分からないことはないのですが、今回はそんな救いもありません。実は蓄光テープで出入り口は分かるようになっていた(らしい)のですが見えないときは真の闇です。特に踊り終わりは明るい中で踊っているのに暗さになかなか目が対応してくれません。今回2つの作品の踊り終わりで悲劇に見舞われました。一つ目は闇の中をよるよると壁まで歩いて(這っていたかも)いき、壁伝いにカニ歩きをしているところを、スタッフに保護され、もう一つは金沢さんと手を握り合って牛歩しているところを捕獲されました。「あんたらだけや」という叱声とともに...。次の作品の始まりが遅いなと思われたなら、それは私がまだ暗闇で彷徨っていたからです。闇との戦いは完敗でした。

菊本千永

初めて創作実験劇場に出演しました。佳代先生の作品を踊るのも初めて、ホールも初めて、何もかもが初めてなコトばかりでした。でも緊張を楽しめて本当にいい経験ができたと思います。またたくさんの舞台に立てるようがんばります。 中野アヤカ(大久保ジュニア科)

実験劇場は私にとって三回目の舞台でしたが、今回の踊りが一番難しく、大変でした。

題は「追いかける」で、何かを追いかけて捕まえたいのだけど、なかなか捕まえられない。捕まえようとする一瞬にして逃げられてしまう。それを踊りで表現するのは簡単なようでとても難しかったです。佳代先生が言われるように気持ちが入っていないとただ、手足を動かしているだけになってしまうからです。だから私は何かを捕まえたいという思いを持って踊りました。でも緊張したりしてなかなか体が思うように動かなかったので、秋の舞台に向けてもっともっと練習したいと思います。 川口桃子(加古川ジュニア科)

いってきます

8月12日(土) 2006 ピッコロフェスティバル ピッコロシアター大ホール

「月は夜の海で遊ぶ」 出演 中村牧穂 長谷川千夏 名田麻希子 仲間くみ子 梁河茜 植岡マリナ 西田梨緒
作舞 向井華奈子

今年もピッコロフェスティバルにジュニア舞踊団が出演します!

ピッコロフェスティバルは芸術文化の創造活動に取り組む若者たちの参加による県民参加企画の舞台です。ジュニア舞踊団は毎年参加しています。今年は新しいメンバーを迎えた7名で力を合わせて真夏の本番にむけて頑張っています。どうぞ皆様、真夏の暑い時期ではございますが、足をお運びいただきジュニア舞踊団を応援いただけるとうれしいです。 向井 華奈子

またピッコロフェスティバルにでれて、うれしいです。

前より上手に踊れるように練習を頑張りたいです。

西田 梨緒(本部ジュニア科)

8月23日(水) ダンス夢洞楽 北沢タウンホール(東京 下北沢)

「Gift」 出演 金沢景子 向井華奈子 作舞 菊本千永

夢洞楽は4度目の参加になります。前回までは金沢さんと2人で行っていたのですが、今回は金沢さんと向井さんに踊っていただくことになりました。日本で一番有名な「Gift」は玉手箱かと思いますが、Giftには贈り物の他に「天賦の才能」という意味もあるそうです。玉手箱と天賦の才能を拡大解釈して、人間は“運命のようなもの”を贈られているのではないかと考え作品を創りました。金沢さんの存在感と向井さんのスピード感の対比はとてもおもしろいです。夢洞楽に参加するようになって、下北沢になじみができたのですが、本当にいい町です。新旧老若が自然に共存しているといえますか...。でも、どうやら再開設計画が浮上しているそうです。いらぬのにな、と思います。だれもが懐かしく思えるあの町の雰囲気は一度壊れたらもう戻らないのですから。 菊本千永

8月27日(日) ダンスブーケ pm4:00~5:00 本部スタジオ

ダンスブーケは、参加者がそれぞれ創作した踊りを持ちよって発表する会です。ひとつひとつの作品は小さな花。みんなで持ちよればブーケになるね、という意味で名づけられました。ここで発表した作品が創作実験劇場にもつながります。みなさん、どうぞ小さな花(作品)をひとつずつ創ってお持ちより(参加して)下さい。

9月30日(土) のじぎく兵庫国体開会式~式典前演技 ユニバー記念競技場

出演 寺井美津子 かじのり子 向井華奈子 山本みねか 長谷川千夏 名田麻希子 仲間くみ子 土居睦美 空久保香世 梁河茜
谷舗亜佑美 中野アヤカ 金沢輝彦 植岡マリナ 松浦早希 平岡愛理 西田梨緒 松本佳那子 山下真奈 姜未喜 坂本侑菜
田村優季 小浦奈都美

先月、初めて国体の開会式の全体合同練習が中央体育館で行われました。私たちは、「リードダンサー」という全体を引っ張っていく大事な役割なので、その場で振り付けを覚え、全体の形を把握しながら踊らなければなりません。前回、本部スタジオで行われた練習では佳代先生の振付けた踊りを練習しました。二回目の全体合同練習では入場や、それぞれの構造物への移動の仕方などを先生方に振り付けしてもらいました。まだ今はほんの一部しか全体練習をしていないのですが、一つ、一つずつの踊りを皆で踊ることによって一つの世界を作り上げていくのはおもしろく、とても楽しいです。これから本番に向けての練習もたくさんありますが、精一杯頑張って素晴らしい開会式にしたいと思えます。 空久保香世(西山ジュニア科)

編集後記

原稿をお願いするとき、「すみませんが、断る権利はないんでお願いします」と脅迫じみた原稿依頼をしております。ワールドカップ中、テレビも見ず、睡眠時間も削って書いてくださって(実話)本当にありがとうございました。無事第3号を刊行することができました。

責任編集 菊本千永